



Title	園児集団の階層とボス(上)
Author(s)	鳥居, 正夫; 浜田, シズ; 川上, 鈴子; 田中, 富貴枝
Citation	人文科学研究報告, 9, pp.17-25; 1959
Issue Date	1959-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10069/31982
Right	

This document is downloaded at: 2018-12-17T00:40:03Z

園児集団の階層とボス（上）

	鳥居正夫
付属幼稚園	浜田シズ
全	川上鈴子
全	田中富貴枝

昨年度のわれわれの「園児集団」についてのランキングとリーダー」についての研究結果（前号報告）を検討し、より正確な実相を把握するために、本年も入園以来の園児たちの行動を追跡してきた。できるだけデータを展示して、集団の動向を記述することとする。

園児は5-6才（昭和27・4・28・3生）の一年保育児で、青組（川上教諭担任）は年長組、赤組（田中教諭担任）は年少組である。園児名のかわりに出生順位の序数を使った。表・1と表・2を参照。幼稚園経歴者は約3/5である。

四 月

10日の入園式はとても静かに行われた。昨年のように、あばれまわったり、母親からはなれてならば泣きわめくなどというこどもがなかった。11日保育が始まったが、赤組は2名(36名)が参加しない。青組ではみな整然として先生の方を向いて歌をうたっている。ひとりも社会化未熟児がいなとは驚いた。去年は各組2・3名の不参加者があり、4月中は絶えなかった。一人の男の子を泣かしかけている児があり、名札をみたら20だった。現在のボスである。15日母姉十数人付添。昨日20が一番元気だったということ

がわれわれの話題になった。女兒2人が松村事務員に「あそびせない。」とうったえる。ゆうぎ室で女の子2人がままごとをしていて、そのひとりの⑦が頑張って、させなかったのだ。この子も今日にいたるまで女傑である。自由あそび最中の時間見本⑨・40現在)をとってみる。(図・1参照) いちばん独立性のない子たちがジャングルジム(4人)やタイコ橋(4)やブランコ(5人)の付近に母親といたり、ひとりではなれて立っていたりする。昨年はこのはなれごから上層者が出たが、ことは下層者ばかりになった。つぎは母親からはなれたがかわった環境にきて教師によりかかっているこどもたちで、中位層といえよう。砂場で田中のまわりに二十数人がかたまっており、回旋塔の川上にも十数人がまつわりついている。最後は遊戯室(3・4人)や池のまわり(5・6人)で自分たちだけであばれまわっているこどもたちで、だいたい上層者となり、ボスやリーダーもこの中から出るとみてよい。現在の三傑20・4も池のふちにいた。10分後入室。20は果然豪傑ぶりを発揮した。左どなりの子の手をたたき、右どなりの児の耳をひっぱった。名前を呼ばれるとき、「ぼくからよんでおくれ。」と言った。強そうなのをチェックしてある。147 20 21 14 26 32 38 などであるが、このうちの3・4名はだんだん落ちて行った。16日..ゆうぎ室で数人チャンバラをやっている。38の頭にあごをうちつけられた20が、38をかかえてマットの上につきころがした。20は4が乗っていた木馬をとって乗った。32ががむしやらにかかかっていて、38は顔をたたかれてペンをかく。20がきて誰が泣かしたかとききまわったが、わからずに終った。口がたっしゃな38は体力も必要とするこの社会では転落者となった。両組とも席につかない者がいない。

五 月

7日:7と20が鬼ごっこあそびのハンカチのとりあい、少しつ

かみあつた。27が7に砂をかけられて泣く。いままではペソをかく程度だったが泣くようなけんかが始まつた。新しい集団環境になれてくると、ちよつかいが起る。ちよいとつついてみる。相手が弱ければペソ顔になる。強いやつはとびかかってくるが、ふざけにする。ふざけがけんかになり、けんかがふざけになりがちである。このごろさかんになつたすもうも強弱をテストする有力な手段だ。園児たちの動作も目にみえてスピードを増してきた。4と14がふざけからつかみあいになりかけた。チャンバラが園庭に移動する。14は口をへの字にむすび、うでぐみして一児に「ゆけ！」と敵の方をさす。14に3・4人がかかつてゆく。この児もリーダー見込者の一人だつたが、温和な性格のためか、幼稚園のボスにはならなかつた。「みんなあつまれ！」と14が言うのと、4も叫んだ。両者タイコ橋の前でたたきあう。両腕を車輪のようにふつて戦い、いよいよ真剣になる。4やめてゆうぎ室の方へきて、「あいつをやつつける。」と言うが、ゆく者はなく、止んだ。しばらくあと同じところで、14は20とも車輪の舞の戦斗をやつて、引き分れたが、14の方が優勢にみえた。20日池の東南端で6人あそんでいる。1218な27ど。7がリーダーで命令している。「みんなくんでおけ。おれがやるけ

組別	出生順位	すもう順位	びの序列 強い順なら	同(高組合同)	
				青組	赤組
青組	1	2	18	4	30
	2		14		44
	3		20		33
	4	3	13	5	37
	5		8		27
	6		2		35
	7	1	11	1	36
	8		2		28
	9		1		40
	10	4	9	2	34
	11		22		32
	12		10		5
	13	7	25	7	39
	14		6		45
	15		7		48
	16	5	23	2	31
	17		15		46
	18		16		42
	19	1	12	6	47
	20		1		29
	21		4		49
	22	6	5	7	41
	23		21		
	24		19		
	25				
赤組	26	4	2	3	23
	27		4		32
	28		16		48
	29	5	15	1	38
	30		欠		47
	31		11		29
	32	3	1	2	49
	33		8		
	34		14		
	35	1	9	7	
	36		21		
	37		13		
	38	2	10	6	
	39		3		
	40		19		
	41	7	18	7	
	42		22		
	43		12		
	44	6	6	7	
	45		17		
	46		5		
	47	7	20	7	
	48		7		
	49		24		
	50				

表. 1. 男児の諸順位

できた。32が「だれが泣かしたか。」ときく「これか。」と19をみる。「なし、なかせたか。」と19に言い、顔をたたいて去った。さすがに赤組のリーダーの性格はもっている。連鎖攻撃が起つたのは

ん。牛乳びんにわいもくんでおけ。」21日9・10、32を217等の連中が攻撃する。下駄箱のところまで4が32をつかんで、両者もあう。21は4に「たたけ、たたけ。」と言う。32職員室前まで逃げてくる。21とにらみあう。二人の先生がとめてもやめない。7と32にらみあう。すご味をきかした32の表情にぞっとする。21がだきついた。ふりはらった。9・30解けた。10分ぐらいあと21が赤組室にいた38につかみかかっていた。おっかぶさった。4830というのは年少組の強者だ。34もその一人だが、二日前「おうどか」といって攻撃された。7や21に「なぜ○ちゃん(32の名)をいじめるの。」とたすねても、「おうどか」とこたえるだけだった。けっきょく年長組の上層が年少組のめぼしい強者をやつてきているのだ。事実、この後だんだんと赤組の豪傑は青組の上位者たちの下についてしまった。26日10・5日、4が乗っていたブランコを20が行ってとった。4はとりのブランコ(19)へ行った。連鎖攻撃だなきずいた。とられた19はさらに右どなりの28のブランコの後へまわつて、「のけ」という。4と20はよそへ行った。なかなかのかないので19はブランコをひっぱつて、28を落した。28は大声で泣いて手をふりあげて19へ向つてゆく。32と34ともう一名がとん

組別	出生順位	びの序列 強い順なら
青組	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯	7 14 8 9 15 5 1 4 13 11 2 12 6 欠3 欠10
赤組	(18)(19)(20)(21)(22)(23)(24)(25)(26)(27)(28)(29)(30)(31)(32)(33)	欠3 9 欠10 14 8 11 6 4 12 2 13 1 7 5

表. 2. 女兒の諸順位

強弱の段階がだいたい分ってきたとみてよいだろうか。しばらくあと水道端で**32**は**38**をたたきふせて泣かせた。**38**は室内へ入った。本格的な肉弾戦だ。27日・回旋塔に5人のってあそんでいる。21「ここでだれがいちばん強かか」ときく。14が「○「25の姓」だ。」とこたえた。21は面白くない感じ。構外学習に出発のとき、赤組の先頭に**32**と**27**がならんだ。この時分は上位者だった坊ちゃんタイプの**27**もしだいに下って行った。帰ってきたとき、水飲み場へ殺到した。

誰も言わずに一列を作った。昼食のパンを買うとき列んでいる経験が影響しているかもしれない。7は誰れかれたたいた。28日・下駄箱前で**32**が⑪をつかみ、ゆさぶって泣かした。上位の女兒もいばっていられない。男児が2・3人わあわあはやし立てた。7がとんできて、「だれがなかつたか。」と二人をにらむ。立廻り最中、7はゆうぎ室の壇から足をふみはずしてころぶ。「いたかったやないか。」と14を黒板におしつけ、腹を数回こずく。14大きな目をひらいてみているだけ。チャンバラは7が立役者で外の者は切られ役だ。21も切られて倒れ、横たわっている。青組の廊下で、**10**と**15**がふざけからけんかとなった。7が「こりや。」と**10**をだきかかえてとめた。10・55。5月中旬ごろからけんかが頻発するともな仲裁行為もよくみられた。去年は全園児のリーダーとなった児がきわだっていたが、今年は数人が仲裁をやっている。けれども多いのはやはり7と20である。29日の登園時、鳥居が4といっしょに

という。20と7は7元気なく、すぐ押し出される。しばらくして、すきをみてとびかかって行って20を押し出した。6が大きなビー玉をふたつもってきて、7と20にみついだ。10・30。24が部屋に入ってゆかないといって、15がつついて泣かした。7が15をたたく。15はそばの女の児を泣かした。

六 月

2日・荷造りのなわで汽車ごっこをしている。7―〇―〇―21の汽車がピイッと走ってゆく。川上が運転手をかわらせようとするが、なかなかかわらない。先頭の運転手になっているのは強いやつだ。20―〇―〇―21。27―〇―〇―32。7―6―14の車がきた。田中が「みんな運転手になりたいでしょう。あなたたちだって。」と交代をすすめても「なりたくないか。」(14)、「よか。」(6)とこたえた。7の前だからだろう。ゆうぎ室で、ジャンケンで早く5人をけらいにするあそび。4が「まけたやないか。」というとな7がたいて、負けてもあとにつかない。こんな規則違反の常習がみな彼とあそびなくなり、逃げ出すところの最も大きな原因である。川上がみなを集めて一般的に「きそくを守らず勝手なことをしてはいけない。」と注意した。7は部屋のみみに3分ばかりうづくまっいて、それからピアノのうしろへ入りこんだ。食事のとき廊下に立って入らない。呼ばれて入っても歌をうたわない。このこと以後、教師に対する反抗的態度が時折出るようになった。

4日 三輪車による実験 第1回

昨年と同様に園児を集めて1台の三輪車を提出するという実験を本年も試みた。

9・45 浜田が三輪車をもって出ると、女兒数名が手をかけながらついてきた。地上におろすと同時に29が乗り、19もまたがったが、おろさした。みんなを呼び集めてから放した。21無理に乗ろうとする。20「おうちやっかね。」と言って、ハンドルをおさえる。その間に44がむしゃらに乗った。39がたいた。数歩行ってすぐおろされた。

7は実験前からアメンボウ取りに熱中していて、集合時にも水飲み場で水そうをのぞいていた。来たが、「ぼくそのつぎね」とまた帰り、643に「アメンボウとろう。」と言って、池へ走った。この連中は三輪車に無関心にすごした。きいてみたら、「あげんにと乗ってなんするか。」と7はこたえた。

15 21 20つかみあい、15が乗った。20「そのつぎぼくね。」と言って押してゆき、ブランコの手前にかわった。20が始めて池をひとまわりしてきた。21ハンドルをにぎって交代。「1台しかなかね、だめね。」39 18 2 19 45 33車のまわりをついてまわる。29「男ばかりのっている」と不平を言う。21砂場の方まで速廻りする。それをみて20「○○〔21の姓〕こすかぞ。」と車をおさえてひっぱってくる。

回旋塔に女兒4人(22(30)(25)(6))があそび、ブランコに(18)(1)など数人がいる。

9・51 20乗って池を2周する。21 18「2回も乗んなと。」とぐちをこぼす。32 35「ひとつしかなかっじやないか。」と行ってしまふ。ほかのこどもも教師のそばで早く修ぜんはできないのかともんくを言う。

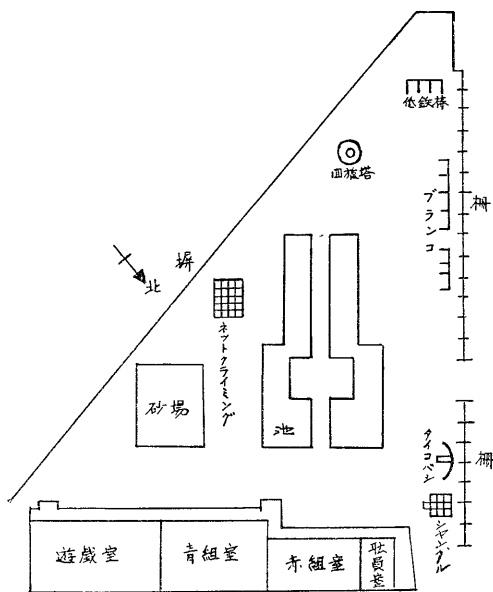
9・53 21来る。2周。ほかの者「いっちょものせんとばい。」と不平。21ゆっくり砂場・水道のところなど廻ってくる。3 23などまわりについている。

池へ水を入れるところで30 33が水を出していて、20がきて「すんな。」と言った。30が「わいにひっかけよらんけん、よかやっか。」という。20はだまっていた。33は表面だたない児だが、園中の誰にでも屈従しない。池の東南隅で26 32など赤組の人数がずっと遊んでいた。年少組の上位者も場の中心へ入ってゆけない。

9・55 15のり、18ついてまわる。44 27「ぼくたち1回ものってない。」4・5人とりゆくが、20おしのけて乗る。8 40が乗せてくれとそばへゆくが、のせない。23「1回ものせてくれな。」と川上のところへ告げにくる。

10・10 21が乗る。途中でおりて廻り道する。14「ぼくもとお

図1.園略図



みちしてくれんば。」と憤慨する。44「早くしろ。」と催促。
10・03 44乗る。1ついでゆく。

砂場では14がリーダーで1119⑩⑥などと池作りをして、実験初
期から10・37までいた。

10・05 1が乗って21の通ったとおりに速廻りする。23 44ついでゆく。4 44「おれぞおれぞ」とつかみあう。

10・07 23 4せりあう。ジャンケンしようと4が提案。4が勝
って乗ってくる。

10・08 18 23ジャンケン。23が勝って廻ってきた。
10・10 近くにあった5・6名が、おれぞおれぞと寄ってくる。

3と2がつかみあい、39が間に入って止める。みなジャンケン
するがきまらないので、2人づつしょうとお互に始める。1は
4に勝ち、48 46の勝者にも勝った。

10・15 4、1周。

10・16 1、1周。

10・18 4に交代。18 23車のうしろの横棒にのり、10があとお
しする。45ついてまわる。

10・22 23のり、10が押す。砂場に乗り入れて14からおし出さ
れる。10が乗る。誰もついてゆかない。39 20ジャンケン。20ま
けたので、「みんなでせんば」とやりなおす。21勝って乗る。

10・27 ミンナジャンケンしている間に20乗る。35ぼくぞと言
うが、行ってしまふ。

10・28 2、1周。25 44つかみあう。

10・30 44 1周、25 2 46 38 35がならんで待っている。

10・32 21 砂場からきて、ならんでいるのを尻目にとって乗る。

44 2 38 20 (途中からわりこみ) 46 35 26の順序に、赤組室前の平
均台に腰かけて待つ。石丸寄り道して、じらす。

10・35 44 1周。腰かけてならんでいる順序、2 20 45 38 46 35 40
12 42。いままで乗れなかったおとなしい子が大部分だ。

10・41 44 6分間もじらせて乗りまわす。待っている児ガヤガ
ヤ言って、教師にもうつたえる。21がかわった。乗りまわし
て、おりるようなふりをしてはほかのところへゆく。ここでの
せると言って、みなついていってだまされる。(実験中止)

乗車回数	順番	乗車者
4	1, 10, 22, 24	44
2	2, 7	15
4	3, 5, 8, 20	20
6	4, 6, 9, 19, 23, 25	21
2	11, 15	1
3	12, 14, 16	4
2	13, 17	23
1	18	10
1	21	2
25		9

表. 3. 第1回実験乗車表

5日・浜田が水まきするのをこどもたち7・8人が手伝う。7が
きてホース口をもっている児の手をのけて、自分がにぎって水をと
ばす。21がきて横からホース口にさわろうとすると、7が「こりや
／＼」と言う。21ホースの元の方へ5・6人目のこどもに「こりや
／＼」と言ってとる。20もやってきて、「とならんでしばらくしてホー
ス口をにぎる。7なんとも言わない。9日・10・00 砂場のわき
の草原から「はぎのちゃん／＼」という叫びが聞えてきた。4 20 21の
3人が腰をおろして、20が4のほっぺたにチョウの黄い粉をつ
けたことから手であらそったが、とてもかなわないとみて親分格の
7に救いを求めたものだった。4も7も虫好きで、7がかごをもっ
て2人で虫取りをよくやっていた。7がとんできた。7は20をみた
がニヤリと笑っただけで、いつしよにあそんだ。20では相手がわる
かったのだろう。1が虫取り綱をもった赤い服の女児(7)だった。
をおいかけ、池をひとまわりした。みていた男児一名がはさみうち

にして、2人でおいついた。池のふちであそんでいた21が「なに、するか。」と1に向い胸をついた。13日…ジャングル・シムの前、10が14など数人をならばせている。「はっしや。」と10が叫んで、みんな飛び出す。このロケットは池をまわってきて、ジャングルの上へのぼった。そこへ721があみをもって通りかかった。21が「○〔14の姓〕がいちばん大将か。」ときく。10が「ちがう、○○。」とあまり強くない児の名を言った。その児は顔を伏せた。2人割りこんでチャンバラをさせた。10のグループは自然に列を作った。かたまった。10「あっちへゆこう。」とつれてゆく。「ならんでいたのにあいつらがきてこわした。うちの中でね、やろうぜ。」と言って園舎へ入った。この児は中堅層のリーダーだ。14日…童話があるので全児をゆうぎ室にあつめたとき大騒動が起った。26が女の子をたいたというので総攻撃をうけた。14が向って行ってたたかれて泣き伏す。21とにらみあい。こんどは32と向う。27がたたかれて泣いた。この間26も泣きじやくりながら戦ってきた。16日…すもう・11√14、14√8、14√25、20√15、25√15、15√25、35√32、20√39、20√35、32√21、21√32…。チャンバラ・20「おれひとりぞ。」と言って、9人を敵にし、21を大将にした。このあと20などがいなくなるとき、21も「おれひとりぞ。」と言って、32を「おまえが一番。」と敵方の大将にした。強いのは一騎当千の役につく。パン買いの列に21がわりこみをやるが、誰ももんく言わない。しかしこのごろ21にこどもたちがつかなくなる傾向がみえて、きいてみると、彼が「いばる、彼に負ける」等と言った。20日…かぜで欠席していた7が母親ときている。うちでねていて、「○○〔21の姓〕がいばってるだろう。○○〔35の姓〕ちゃんがいじめられているから、ぼくが助けにゆかんば。」と言っていたそうだ。21日…20と7がくみ、ほかの21263925など相手にまわる。7板を投げ、虫取り

網を投げる。みなビクビクする。逃げ去る。1時間ばかりあと、7は数人がみかみどなって飛行機をくみ立てさせようとした。みな逃げて21と2が残った。「ようとかれ」、「あはたん」、「わりや、すんな」と言われて21も手が出ず、すくんでしまう。自分がリーダーのときのいばった顔つきとくらべると、おかしくなる。7がほとんど自分でくみたてて、ニコリとする。21を後の倉庫にのせ、自分が運転する。外へ呼びに行ったが、誰もこない。23日…7は23などの弱い児や女兒と砂山つくりをしている。上中位のあそびグループが彼から逃げたためだろう。21青組室前で25をにらみつけ、1など3・4人をあつめて、「これなかせ。」と言う。25職員室に逃げたが、来客中で1にたたかれてしまう。小柄で非力な21はひとの腕力を利用するようになっていく。30日…構内学習で川上が「きれいならびなさい。」と言ったら、先頭に7と21、つぎに20と6がならんだ。巡回の途中で20が21をあへとへやって先頭に立った。

七月

3日…⑤と②が砂場にきて20に訴えにきたが、ゆかず、21がついて行った。ジャングル・シムにきたとき女兒2名がつかみあいをして、⑦と⑩で、⑩が泣きだした。⑦のいたずらを告げに行ったらしか観察していない。4日…204463243などチャンバラ。7のときちがって、のびのびしている。20切られたりする。しかしこの児はからだのしんによわそうなところがあって、ねばりが足りない。赤組の女兒にグループのようなものが現れ出した。⑳をリーダーとした⑮などの数人と、㉒がリーダーらしい㉔㉓など。両組を通じて女兒の最強者は⑦⑩あたりか。8日…げた箱の横で㉑が泣く。2・3人の女兒がめんめんとしやべっている。㉑が㉒をだいてやり、向いあっている児と手をつながせて、ごめんねと言わした。席の配

列が順位と関係のあることに気づいた。入園時勝手につかせて、そのままにしてあった。矩形三つに机をかためているが、青組の一番南側に強い連中が集っている。20 7 がならば、その向う側に 6 4 がいる。その横にはこれらの豪者どもを子供あつかいする⑭⑮がかけている。東角に 21。第 2 列はおとなしい者たちだ。第 3 列は中位層といえるだろうか。東角に 10、西角に 14 が陣取っている。赤組では、角はたいい女児で、男児の強者は散在してごちゃごちゃだ。

4 が三輪車をひっぱり出して乗っているが、多くの者が無関心だ。実験時の行動は、みんなを集めて作り出すときのせり合いのふんい気に規定されているのだ。9 日・11 がかごをもって虫取りの7のあとについてゆく。冬になって虫がいなくなるまで、この虫取りの主従関係の姿がみられた。11 にはかのおそびがしたくないかときくと、「たたく。浜田せんせいに言うなと 7 がおこる。」とこたえた。10 日・21 32 6 砂場で池作り。32 は 21 のけらいにまったく切り切ってしまった。「はようせんか、たたくぞ。」「はよう山んどせろ。」「ちっと入れるというたぞ、バカッ。」

1 1 日 三輪車による実験 第 2 回

9・20 浜田がそと車を出した。そばにいた 34 と 20 が交代して数回乗り、ほかに 3 名 (26 39 6) が各 1 回乗っただけで、集まっただけだった。

9・4 3 中止。

9・4 5 前回同様、全員を集めて 1 台をわたす。7 こんどは始めから乗っかかっている。浜田に注意されておりだが、結局一番乗り。「○○〔7 の姓〕ばっかしのって。」とそこそこから批難と攻撃がわき起った。これは 7 に対する平常の態度からは想

像されぬことだった。30 そのほか 2 名ばかりのやかましく叫ぶ奴に、7 は向きなおってつかみ、たたいた。20 が手をふりまわして 7 をつかんだが、ふりきって乗って行った。44 37 31 18 26 ならんでじっとみている。1 「ぼくのらん。」とかんしやくをおこす。8 25 「うちにあるからよかもん。」と去る。

9・5 2 ひとまわりして 44 と交代する。20 はすぐ前たっぶり乗ったためか池のふちで数人とあそんでいる。7 も虫取りに没入した。

9・5 3 30 がちよっと乗ったが、ぼくぞと 17 が言って、かわった。5 3 16 ついてゆく。ジャンケンで 18 が乗った。3 砂場のところへきて「ぼく 2 番、そのつぎ○○〔5 の姓〕。」と言う。

25 「ぼく前のときから乗っていない。」と 11 と言い争う。そのとき 21 砂場から「おれもの」とらんぞ。」「1 「おれものらんば」 48 乗ろうとする。皆「ちがうぞちがうぞ。」「5 が乗って 1 周。17 18 25 11 44 1 ついてまわる。1 が乗る。「おまえは 2 回のったじやないか。」「ちがうばい。」とがやがやとなる。20 22 が走つてきて「お前たちばかり乗るな。」そのあげくミンナジャンケン。勝者同志の 25 と 26 がジャンケンして、

10・0 1 26 が乗る。2・3 人 1 列にならんで待つ。1 周して 25 と交代。22 ついてゆく。21 が砂場からとんできて乗る。

10・0 6 22 と交代。まわってきたら、26 が「おいぞ。」で交代。27 とかわり、ついてゆく。

10・1 0 実験中止。

10・2 0 16 台の三輪車を全部出した。乗った者を横にならばせた。18 43 34 4 (二) 15 (二) 1 21 四 20 (五) 31 (三) 30 22 5 27 38 44 四 7 (七)。おとなしい者も 2・3 名乗っているが、それぞれひとかどの者だ。1 周で交代したのに 7 20 21 などかわらず、通りすぎて行っ

た。(丸かっこの中の漢数字は乗った回数である。)

乗車者	乗車順番	乗車回数
7	1	1
44	2	1
30	3	1
17	4	1
18	5	1
5	6	1
1	7	1
26	8, 12	2
25	9	1
21	10	1
22	11	1
27	13	1
12		13

表 4、第2回実験乗車表(全員集めての実験時だけ)

12日・池の西南端の大樹の下で、7が三輪車を集めた。かぞえる。1台づつ池をまわらせる。水飲み場へ行進し、「水のめ。」と号令をかけて、皆飲む。1列横隊にそろえ、ドンと言って、自分が先頭に立って、池を3回まわった。あざやかな指揮振りだ。14日・青組室から32たち数人がぞろぞろ出てきた。「○○〔7の姓〕のおそろしか、すぐおこる。」と32が目を丸くしてしゃべっていた。このごろ、おとなしい児の母親から家庭で乱暴するという報告が頻々と来る。園での被圧迫の補償行為か、強者の態度の見習いか。

15日 三輪車による実験 第3回

- 9・25 浜田が車をもって集めたとき、21はいちど砂場へ逃げた。7と20がハンドルをとりあう。20が「○○〔7の姓〕はこの前乗ったやないか。」言ったので、
- 9・28 彼が先番をとった。7が立つ。21が「おれ○○〔7の姓〕のつぎぞ。」とあとにつく。11が「おれそのつぎぞ。」とつぎにならぶ。すぐ自然に1列縦隊ができた。20ひとまわりしておる。
- 9・30 7すねたような態度でしばらく立っていたが、車をつかむと元気になって乗った。

- 9・32 1周して列の前でさっとおりて、11とかわる。列順・44・28〔あとで脱落した〕3 20 18 7 48 22。3乗車。20交代。前記の列の後尾へ21 11〔わりこみ〕2 10 17 44 3 4とならぶ。

- 9・35 18乗車。20降りてから3番目へ割りこもうとする。21「こすばりよる。」ともんくをいう。その3・4番あとへ入ろうとして肩を押し出される。とうとう一番ビリにならない。ナンバー・ワン候補もことは横暴がゆるされない。

- 9・37 7交代。途中でじらす。48 22 21 27 11 2 順次交代。待っている者で数をかぞえる。つづいて10 17 44 3 4 20乗車。20じらす。18乗車。

- 9・47 7交代。20のやったように皆の方をみてじらす。下車後どんこ取りにゆく。21乗車。20まわってきた21に水をかける。21列からはなれる。22 11 2 10 44乗車。44じらすので20がむかえにゆく。3と交代。

- 9・57 20交代。遠まわりしたり、あともどりしたりするので、待っている者さわぐ。「ああ面白かった。」と20降りる。

- 10・00 210 44 3 順次乗車。ならんでいる者2・3名となった。車が十数台出たのでとんでゆき、列は消滅した。
- 10・05 実験中止。

乗車者	乗車順番	乗車回数
20	1, 5, 19, 29	4
7	2, 7, 21	3
11	3, 12, 24	3
3	4, 17, 28, 33	4
18	6, 20	2
48	8	1
22	9, 23	2
21	10, 22	2
27	11	1
2	13, 25, 30	3
10	14, 26, 31	3
17	15	1
44	16, 27, 32	3
4	18	1
14		33

表 5. 第3回実験乗車表

3回の実験結果をふりかえってみよう。

(イ)回を追うにつれて、問題事態に対する集団の適応がスムーズに行われるようになった。言いあらそいが漸減して行った。第1回にはみられたつかみあいやたたきあいの格闘が第2回以後起らなかった。乗車回数をみると(第1回を開始後30分で切れば14回になる。)、第3回で激増している。

(ロ)第1回実験時間の過半、ぞろぞろ車のまわりについてまわる場面がつづいたが、2回では激減し、第3回では消失した。1回目の後半でジャンケンとミンナジャンケンが起り、順番にならんだ。2回目の後刻にもこれらのできごとがみられた。3回目では始めから1列にならび、その順番のとおり交代した。混乱からルールが現われ、それも民主的な集団秩序がつくられた。

(ハ)第1回には上位者の2周があり、全回を通じて豪者や押し強い者の多数回乗車や寄り道やわりこみが行われた。だがこれらの無道は攻撃されたり、排除されたりした。ことに首長候補の7と20の強暴な行為に対してはげしい批難が向けられたことは、リーダー制の確立した昨学年の園児の実験をみているわれわれには驚異であった。

(ニ)リーダーは出現しなかった。昨学年秋の実験で、全園のリーダーであった児は、乗車順を指図したり、世話したりした。ランキングも出来ていなかった。昨年には5・6番ぐらまでのステータスの順位があり、乗車順も乗車回数もそれにもとづいてなされた。本年は第1回まではボス制さえも確立されていなかったが、第2回以後は先頭は20か7かのどちらかとなった。第3位以下はきまっただけで、執心の強い児が何回も乗ったりしている。そんな点もあって年少組もいくらかは割りこんでいるが、323035などの赤組のリーダー格の者は1回も乗っていない。第3回の実験では323026などは青組の14などとともに砂場であそび過ぎたし、35は後半赤組室の前で

じっとみていた。16台出してせり合いの場の緊張がとけたとき、川上があいていることを教えたら、この連中がうれしそうに乗り廻した。

(ホ)階層はある。平常は両組の落差を観取できにくいだが、こんな実験などの場になると年少組がおされてしまう。また今年実験を3回つづけて実施して始めてきづいたのだが、必ずしも強弱に規定されていないと思うのに、三輪車の場に参加する顔ぶれはだいたいきまっている。ボスや上層者が退場し場がくずれたあとで、周辺にいた者が入り込んでくる。さらに実験後の自由あそび時間や昼休みにになると、おとなしい連中や女兒の強者などが乗っている。けれどももっとも弱い男児や女兒たちは教師につかまってせがんでいる。

16日・鳥居が登園のとき(四)といっしょになった。三輪車に乗りたくないのかときくと、「ない。もっとおもしろい遊びがある。」とこたえた。園がみえてきて2・3人しかいないと言うと、「みんないなければ自転車にのるよ。」とかけて行った。田中・川上交代乗車を指導する。7車がとれなくて川上のところへぐずぐず言ってくる。31に20がおがんで頼んだが、かわってもらえなかった。今年のボスは昨年度の強者のような暴君ぶりを発揮できない。17日・7が「ぼくここに置いたばい。」とゆうぎ室の入口に置いてなくなつた車のこともんくを言う。20も1台を室内に入れようとして川上に注意された。昨年のようにボスが専用車をつくる現象が出てきた。

(未完)

あとがき

枚数超過のため後半を次号にまわした。本原稿は鳥居が執筆した。三輪車実験は8ミリカラー、平常はカラー・スライドにとった。作品の一部は当園研究発表会で公開した。記録とスチル・モノクローム撮影に、能川・溝部両君が参加した。

1959・1・20